

[小企画]

堀江 菜

触れないものたちへ

[associated exhibition] HORIE Shiori: Toward the Unreachable

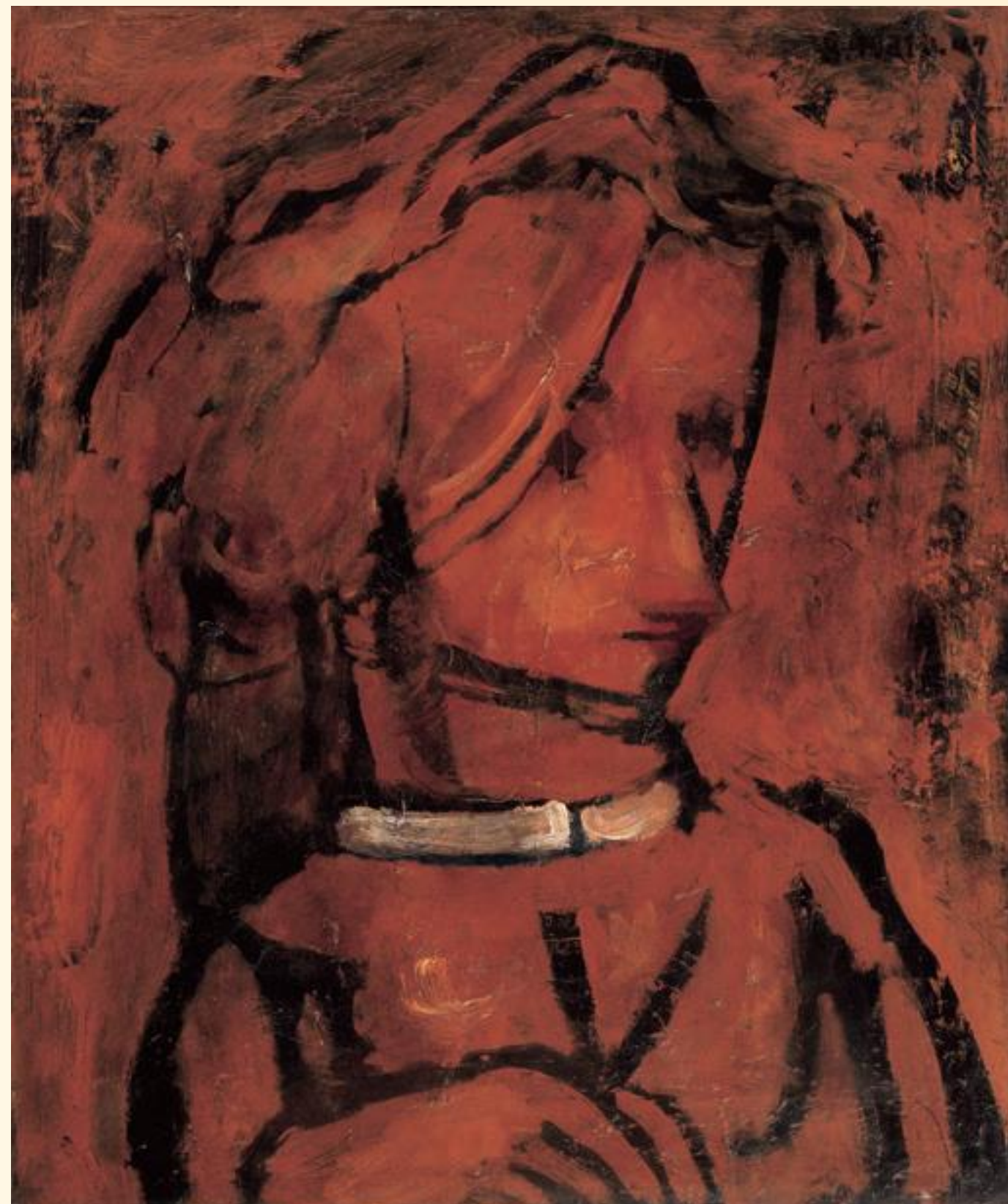
《後ろ手の未来 #4》部分 2021年 岩絵具、膠、和紙 作家蔵



生誕110年

松本 竣 介

MATSUMOTO Shunsuke: On the 110th Anniversary of His Birth



《少女》 1947年 油彩板 当館蔵

2022 4.29 [金・祝] — 5.29 [日]

神奈川県立近代美術館 鎌倉別館
The Museum of Modern Art, Kamakura Annex



開館時間＝午前9時30分－午後5時（入館は午後4時30分まで） 休館日＝月曜日 主催＝神奈川県立近代美術館

2022 4.29 [金・祝] — 5.29 [日]

神奈川県立近代美術館 鎌倉別館
The Museum of Modern Art, Kamakura Annex



開館時間＝午前9時30分－午後5時（入館は午後4時30分まで） 休館日＝月曜日 主催＝神奈川県立近代美術館

生誕110年

松本竣介

MATSUMOTO Shunsuke: On the 110th Anniversary of His Birth



《立てる像》 1942年 油彩カンヴァス 当館蔵



《建物》 1935年 油彩 板に紙 当館蔵



《R夫人像》 1941年 油彩 板 当館蔵



《工場》 1942年 油彩 板 当館蔵



《立ち話》 1937年 油彩カンヴァス 当館蔵

明治の末年に生まれ、日中戦争から太平洋戦争へと続く過酷な時代を画家として生きた松本竣介。西欧の古典絵画に影響を受けながらも新時代の絵画を求め、20年ほどの短い画歴のなかで多彩な展開を見せました。生誕110年を記念して開催する本展では、二科展初入選となった初期の黒い輪郭線による《建物》から、独自の静謐な都市風景の《橋（東京駅裏）》、代表作《立てる像》をはじめ、戦後、赤褐色の地色に粗い筆致で描いた《少女》まで、昭和前期の日本近代洋画壇に重要な足跡を遺し、時代を越えていまなお多くの人を魅了する松本竣介の油彩、素描25点と彼が手がけた雑誌『雑記帳』の関連作家による挿画原画を当館のコレクションから厳選して紹介します。

松本竣介 略歴

1912(明治45)年、佐藤俊介として東京に生まれる。少年時代を岩手で過ごし、13歳の時に病のため聴覚を失う。兄から油絵道具一式を買ってもらったのを機に絵を描き始め、画家を志して1929(昭和4)年に上京し太平洋画会研究所選科に通う。1935年、二科展に初入選。翌年、松本禎子と結婚して松本姓となり、また自宅を「綜合工房」と名づけ、禎子と共に雑誌『雑記帳』を創刊する。1940年、初の個展を開催。1943年、麻生三郎、寺田政明、霽光、鶴岡政男、井上長三郎、大野五郎、糸園和三郎と新人画会を結成。1948年、気管支喘息による心臓衰弱のため36歳で没。1958年、神奈川県立近代美術館で公立美術館初の「松本竣介・島崎鶏二」展を開催。



《橋（東京駅裏）》 1941年 油彩カンヴァス 当館蔵



《Y市の橋》 1943年 鉛筆 墨紙 当館蔵

神奈川県立近代美術館 葉山 Tel. 046-875-2800
2022年4月16日(土)ー6月12日(日)
企画展「生誕100年 朝倉摂」
コレクション展「手跡(てあと)をたどる」



《輪郭#17》 2020年 岩絵具 膠和紙 作家蔵



《後ろ手の未来#4》
2021年
岩絵具 膠和紙
作家蔵



《“包まれた時間”より》
2017年
岩絵具 膠和紙
作家蔵



《後ろ手の未来》 2019年 岩絵具 膠和紙 作家蔵



《凜然》 2010年 岩絵具 膠和紙 作家蔵

観覧料:一般700円、20歳未満と学生550円、
65歳以上350円、高校生100円

※中学生以下と障害者手帳等をお持ちの方(および介助者原則1名)は無料です。
※ファミリー・コミュニケーションの日(毎月第1日曜日:5月1日)は、18歳未満のお子様連れのご家族は、割引料金(65歳以上の方を除く)でご覧いただけます。
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、同日の会話を楽しむ日「オープン・コミュニケーションデー」は中止します。
※その他の割引につきましてはお問い合わせください。

〔新型コロナウイルス感染拡大防止のためお願い〕

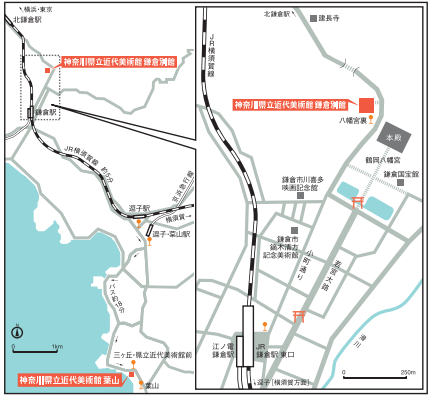
- 発熱や体調不良がある方は、ご来館をお控えください。
- 入館時に手指を消毒し、マスクを着用してください(着用が推奨されない乳幼児や障害者へはご配慮をお願いします)。
- 混雑状況により、入場制限を行う場合があります。
- 今後の状況により開催内容を変更する場合があります。最新情報とご来館に際してのお願いは美術館ウェブサイトかお電話でご確認ください。

〔鎌倉別館への交通案内〕

- 公共交通:JR横須賀線・江ノ島電鉄「鎌倉」駅下車徒歩約15分、または東口2番のりばから江ノ電バス(大船駅・上大岡駅・本郷台駅行、約5分)で「八幡宮裏」下車徒歩2分／JR「北鎌倉」駅より徒歩約20分、または江ノ電バス(鎌倉駅東口行、約5分)で「八幡宮裏」下車
- 車:横浜横須賀道路、朝比奈インターチェンジから鎌倉霊園を経由して鶴岡八幡宮前へ約5km ※駐車場はございません(身障者用を除く)。身障者用駐車スペースをご利用の方は、事前にご連絡ください。

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-8-1
Tel. 0467-22-5000
2-8-1 Yukinoshita, Kamakura, Kanagawa
248-0005
<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

[@KanagawaMoMA](https://twitter.com/KanagawaMoMA)



【小金画】
堀江 栞
—
触れないものたちへ
Associated exhibition HOKI Shiori: Toward the Unreachable

「心から好きなものを描き、その芯を確かな形として表したい」。
1992年に生まれ、日本画の道に進んだ堀江栞は、そうした思いから動物や石、人形などの対象と向き合い、岩絵具特有の質感で描いてきました。24歳の時、フランスで暮らした経験から、人物画にも取り組み始めます。堀江によって描かれる人びとは、どこか寄る辺ない孤独にありながら、こちらに確かな眼差しを送り続けています。「触れないものたちへ」というタイトルには、こうした存在の内奥をめぐる作家の思索が込められています。自らの傍らにある他の存在。目には見えない個々の声に耳を澄ませるその姿勢は、彼女が幼い頃から私淑してきた松本竣介との対話に繋がっているのかもしれません。

本展では、初期から近作(後ろ手の未来(2019・2021)を含む約30点を展覧し、次代を担う画家、堀江の創作の魅力を探ります。

堀江 栞 略歴

1992(平成4)年、フランス生まれ。2014年、多摩美術大学美術学部絵画学科日本画専攻卒業。同年、加島美術(東京)にて初個展。2015年、第6回東山魁夷記念日経日本画大賞展入選。同年、第26回五島記念文化賞を受賞し、2016年、奨学生として1年間、パリで制作を行う。2020年、第6回世田谷区芸術アワード「飛翔」を受賞し、2021年、受賞記念個展「後ろ手の未来」を開催(世田谷美術館 区民ギャラリー)。同年、五島記念文化賞研修帰国記念個展「声よりも近い位置」を開催(「K Contemporary」、加島美術)。第32回タカシマヤ美術賞受賞。
本年3月、「VOC A展2022」にVOC A佳作賞受賞作(後ろ手の未来(2021)を出品(上野の森美術館)。画集『堀江栞 声よりも近い位置』を刊行(小学館)。